

伊集院・東市来・日吉・吹上のあれこれ

日置市まちあるきガイドブック

ひおきまちあるき



仲間とあるこう！ ひおきの隠れたあそび場。



日置市まちあるきガイドブック

日置市役所 〒899-2592 鹿児島県日置市伊集院町郡一丁目100番地 tel 099-273-2111 fax 099-273-3063
東市来支所 〒899-2292 鹿児島県日置市東市来町長里87番地1 tel 099-274-2112 fax 099-274-4074
日吉支所 〒899-3192 鹿児島県日置市日吉町日置377番地1 tel 099-292-2112 fax 099-292-3055
吹上支所 〒899-3301 鹿児島県日置市吹上町中原2847番地 tel 099-296-2112 fax 099-296-3299
<http://www.city.hioki.kagoshima.jp/>

日置市観光協会 〒899-2502 鹿児島県日置市伊集院町徳重285番地12 tel 099-248-7380 fax 099-248-7383
<http://hiokishi-kankou.sakura.ne.jp/>

発行 日置市商工観光課

編集 特定非営利活動法人まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会

2016年8月発行

東シナ海の波と風を受けて

日置市は薩摩半島のほぼ中央に位置し、日本三大砂丘の一つ吹上浜を有し、東シナ海に面しています。伊集院、東市来、日吉、吹上のエリアに大別されますが、それぞれに歴史豊かで自然の表情も違いがあります。のんびり日置市をめぐってみましょう。

これが三大砂丘の吹上浜 長いよね、海岸線

吹上浜はおよそ47kmにも及び、日本三大砂丘の一つ。弓なりに伸びる白砂青松の美しい海岸が南北に走ります。ちなみにあと二つの砂丘、どこかわかりますか？ それはともあれ、浜は様々な表情をみせてくれます。風がつくった風紋のきれいさに見入ったり、意外と植物が多いことに気付いたり、漂流してきたものに想いを馳せたり。たまにはのんびり浜で過ごすのもいいものです。

吹上浜でのんびりあそんでみましょう

吹上浜の遊び方・あるき方

- まっさらな砂の上に、自分の足跡をつけて遊んでみましょう。
- 風がつくった模様(風紋)を鑑賞してみましょう。
- 近くの松と同じ角度でなびいてみましょう。小さな植物に目をとめてみましょう。
- 流木・貝殻・軽石などを拾ってみましょう。(時々古い陶片が見つかることがあります)
- 砂が履物の中に入ってくることに注意しましょう。気温が高い時期は、はだしで歩くととても暑いですよ。
- 海には久多島が浮かんでいます。見つけてみましょう。

“三大砂丘”のあと二つの砂丘とは、鳥取砂丘(鳥取県)、遠州灘砂丘(静岡県)。

吹上浜を体感



●観光地引網 MAP A-1.4

(東市来・吹上)
潮干狩りに最適な季節は3月から5月。主に入来浜付近で楽しむことができます。また観光地引網も体験することができます。(要予約)
問合せ先:江口漁協
tel:099-274-2326



●塩づくり MAP A-4

素焼きの壺で炊く塩づくりを体験することができます。
人数:10~40名(要予約)
料金:1000円/人
問合せ先:渚のあま塩館
tel:099-296-4747



●マリンスポーツ MAP A-1.2

北部に位置する江口浜は、よい波に恵まれ、毎年3月開催のウィンドサーフィン九州大会、7月開催の薩摩波乗り合戦など全国のサーファーが集まる場所。オールシーズン波乗りを楽しむ姿がみられます。



●吹上浜公園 MAP A-4

吹上浜の松林に囲まれたすばらしい環境の中に、体育館・グラウンドゴルフ場・陸上競技場・野球場・テニスコート・弓道場・相撲場・ゲートボール場・全天候型スポーツ施設「亀ドーム」も備えた、総合運動公園です。



日置市は
ここですよ



MAP A-2

大川の河口にある帆之港は、かつては貿易港として栄えた場所です。明治40年の道路の施設と大正3年の鉄道の開通によって漁港へと姿を変えましたが、その繁栄を示すエビスは現在砂丘入り口付近に移設保存されています。建立は天明4(1784)年といわれ、帆之港が江戸時代には賑わっていたことを教えてくれます。

帆之港の恵比寿

ほのみなどのえびす



塩浜(参り)

しおはま(まいり)

吹上では、神や田の神様などに吹上浜の砂と海水を貝殻に入れて奉納するという風習が今でも残っています。お賽銭箱の横などに置いてあるので、目にできる機会も多いはず。



MAP A-3

実は日置市には離島があります。沖合12kmに浮かび、標高29m、周囲1380mの無人島。人は住んでいませんが伝説があります。天智天皇の御后が開闢神社に行く途中に沖合で皇女を死産し、その子どもを船に乗せて流したところ、船が沈み大岩が湧き、久多島になったといわれます。対岸にある久多島神社はこの皇女の霊を慰めるためのものと伝わっています。

久多島神社

くたしまじんじや



MAP A-1.2

当初は均質に堆積していたものが、長い年月を経て浸食されて今のようになダイナミックな景観を作り出しています。

江口蓬莱

えぐちほうらい

蓬莱とは、仙人が住まう山のこと。中国の蓬莱山になぞらえてこのように呼ばれています。地質は、約3万年前に錦江湾の湾奥を中心に噴出した大規模火砕流・入戸(いと)火砕流の堆積物で、いわゆる「シラス」。当初は均質に堆積していたものが、長い年月を経て浸食されて今のようになダイナミックな景観を作り出しています。

吹上浜の
みどころと
不思議

歴史あふれる薩摩街道

江戸時代は鹿児島城下だった鹿児島市街地から、鹿児島中央駅の北西側、西田町・水上坂を経由して伊集院に至る道は、妙円寺詣りの道筋。このルートは出水筋と呼ばれ、薩摩藩の重要な街道の一つでした。道沿いには、今も街道の雰囲気を感じることのできる場所が多くあります。



歴史を体感

歩け、歩け、歩け、徳重神社をめざして



鹿兒島の三行事のひとつにも数えられる妙円寺詣り。そもそも、その由来は実に四百年以上も遡ります。1600年、当時の日本を二分して争われた「関ヶ原の戦い」。西軍・豊臣方に味方した島津氏は、義弘を総大将に参加。しかし敵にまわりを囲まれ絶体絶命の大ピンチ。このときとった策が「敵中突破」。東軍・徳川家康本陣めがけ進み不意を突くという奇策によって、命からがら帰ってくることができました。このときの艱難辛苦を忘れることのないよう、義弘公の菩提寺・妙円寺(現徳重神社)に武者たちが参拝したのが今に続いているのです。また、今も保存会の人々によって甲冑行列が練り歩き、その勇壮な姿は注目の的。妙円寺自体は廃仏毀釈の際、現在の徳重神社となりましたが、その後再興され、現在徳重神社から数100mのところにあるので、こちらも併せてお参りしたいですね。



左 徳重神社 右 現在の妙円寺。妙円寺は、名僧・石屋真梁禅師(せきおくしんりょうぜんじ)によって開山した曹洞宗の寺。現在も開山像並びに島津義弘の位牌も本堂内に現存しています。

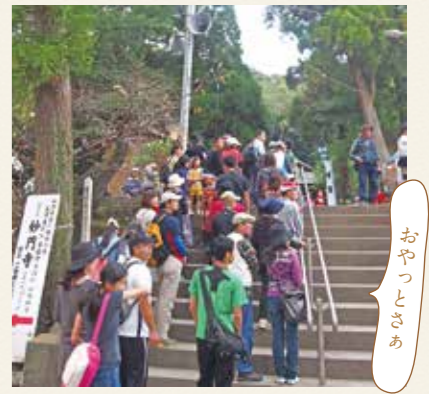


語るときは徒歩で、帰路はJRでという人も多です。JR伊集院駅前の島津義弘公銅像。躍動感あふれるこの像こそ敵中突破の際の姿を写したものです。

歩き疲れたら「伊集院まんじゅう」はいかがですか？



境内では、伝統芸能や武道の奉納が次々と行われ、これを楽しみに集って見物を楽しむ人も多くいます。また日置市内の各所でも武道大会が催されています。この日は、まち全体がお祭り気分なんです。



大勢の詣り客で賑わう境内。ウォーキンググループや、町内会、スポーツ少年団単位での参加も目立つ。鹿児島市街地からの参加だと、約20kmの道のり。歩きながら歴史に思いを馳せたり、自分と向き合ったり。完歩したあとは、境内に設けられた足湯で癒されるなどして、のんびりと過ごす人も。妙円寺詣り：毎年10月第4土曜日・日曜日開催

妙円寺詣りのあるき方

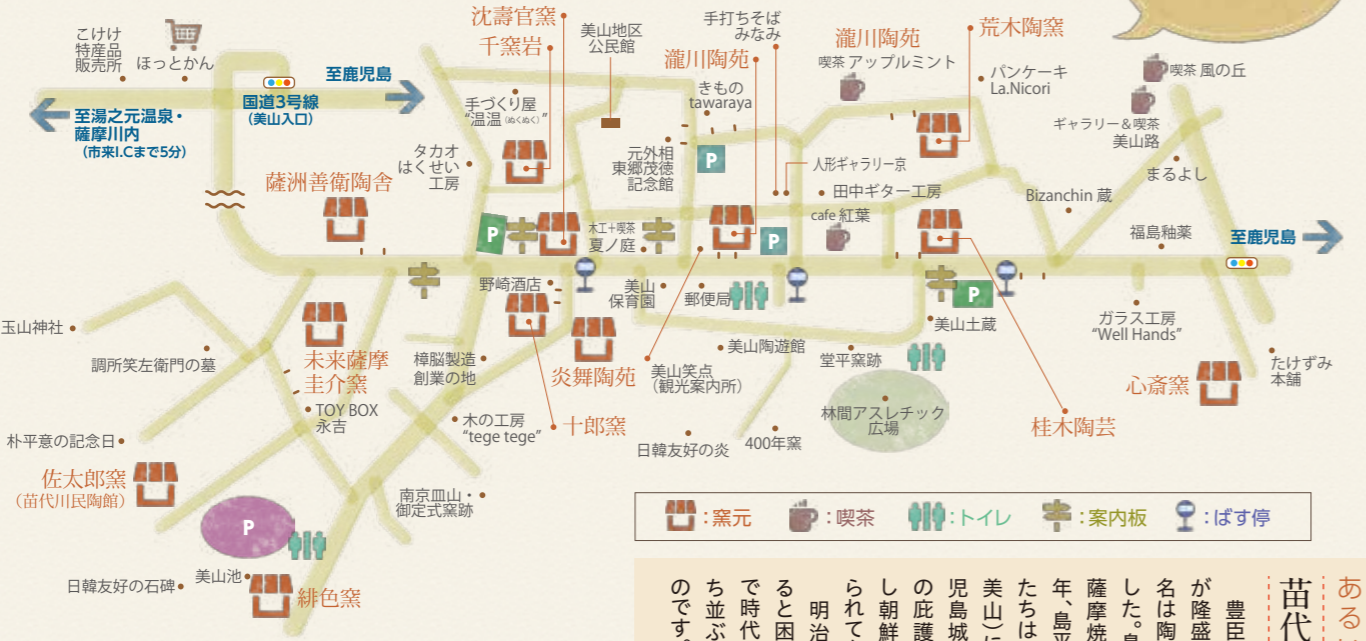
歩いてみたい!と思えば、鹿児島市の照国神社から徳重神社まで歩く「妙円寺詣りふえすたウォークリー」(毎年10月第4日曜日開催)に参加してみてもいい。参加費無料。そのほか、「妙円寺詣りフェスタ」(毎年10月第4土・日開催)もあります。

問合せ先：日置市商工会 ☎099-272-2222
主な場所：徳重神社 MAP B-2
JR鹿児島本線「伊集院駅」から徒歩5分

土橋・清藤付近の旧街道



昔ながらの雰囲気約2km色濃く残る街道は、近年有志によって整備されています。途中には「五本松茶屋」など、街道沿であったことを彷彿させる呼び名も残っています。



☐:窯元 ☕:喫茶 🚻:トイレ 🏠:案内板 🚰:ばす停

美山で遊ぶ



●南京皿山窯跡
弘化3(1846)年、調所広郷らの協力によって開窯しました。この地域にある古窯の中では最も規模の大きい窯跡です。南京→中国から渡ってきた磁器、皿山→皿を焼くところ、からこの名が。明治4(1871)年の薩摩置県によって廃窯。今は役目を終えて静かに眠っているかのような雰囲気。



●玉山神社
朝鮮陶工たちが、故郷の神「檀君」を祀ったのが始まりとされています。この神社の第三鳥居から見える台地は、慶応2(1866)年に、苗代川の人々が、戊辰戦争に従軍するために西洋軍隊の訓練を行った訓練場の跡という歴史もあります。



●美山陶遊館
各窯元の作品の展示があるほか、気軽に陶芸体験をすることができます。入館料無料(ただし、陶芸体験は有料/要申込み)
問合せ先：日置市森林体験交流センター美山陶遊館
tel&fax:099-274-5778



●美山窯元祭り
ロクロや絵付などの体験を陶工の手ほどきを受けながらできるほか、薩摩焼の即売もあり、多くの人出で賑わいます。
開催時期：10月下旬～11月初旬
問い合わせ：日置市商工観光課



●調所笑左衛門広郷・村田堂元南阿弥招墓
玉山神社へと続く道の脇に立つ二つの石碑は、江戸時代後期、薩摩藩の財政改革を成し遂げた調所笑左衛門の招墓。広郷は、当時苗代川といった当地の窯業振興に力を入れ、樟脳の製造などの新たな産業にも着手しました。村田は調所の下で、陶工たちを指導した人物。

静かに息づいている歴史のあれこれ

よしとしかいどう 吉利街道を歩いたら

こまつたてわき
小松帯刀フリーアニュー？

え、幻の宰相ってだあれ。それは幕末に小松家当主として吉利を治め、また薩摩藩の若き家老として手腕をふるった小松帯刀のことです。2008年放送の大河ドラマ「篤姫」に登場して全国的に名前が知られるようになりました。小松家には養子として入った帯刀ですが、文久元(1861)年には側役、文久2年には家老になり、薩長同盟や王政復古、そして明治維新に尽力。しかし明治3年36歳の若さで病没。もつと活躍してはしかった…と惜しむ心が「幻の宰相」と呼ばれるのです。



小松帯刀が領主であった吉利の麓

- 若手の志士たちと協力して、藩内の意見を上手にまとめました。
- グラバーさんと協力し、長崎に小菅修船所(※)をつくりました。
(※) 現存する西洋式で最古の船の修理をする施設です。
- 版籍奉還に率先し、自分の領土と地位を藩主に返して模範を示しました。

小松帯刀がやったすごいことベスト3

幻の宰相に出会った…



園林寺跡 —おんりんじあと—
園林寺は小松家の菩提寺で、小松帯刀もここに眠っています。その横には正妻のお近さんの墓があり、さらに後方には京都で知り合ったお琴さんの小さいお墓もあります。他にもゆかりの見どころがたくさん。詳しいことは現地ガイド(要予約:日置市観光協会 ☎099-248-7380)のお話に耳を傾けてみましょう。



お仮屋跡 —おかりやあと—
領主館は現在の吉利小学校の敷地に設けられました。帯刀は領内の運営にも心を砕き、名君として慕われました。



深大院跡 —しんこだんあと— MAP B-2
「しんこだんご」の発祥の地といわれています。このお寺を14世紀に開いた石屋真梁は、妙円寺(P3参照)や薩摩藩主島津氏の菩提寺・福昌寺も開いた曹洞宗のお坊さん。飢えて民が苦しんでいた際に田んぼの落穂を拾い、それで粉を挽いて団子にしてふるまったのが始まりとか。そう思って食べれば、また一味違うのでは。



たじり ふなき じんじや
●田尻 船木神社
周辺には海など見当たらないのに船の名前がついているのが興味深い。しかも神社では船の模型が登場する舟漕ぎの行事まで行われているからなお興味深いです。御祭神は猿田彦命で、様々な神々が周辺の地域に下向される際に海上安全の先導役を果たしたといえます。また、この周辺の森の木が船の材料に利用されてきたことも由来するようです。田園の中にある鎮守の森の在り方もすばらしい。



こんな神社があったんですね。日置の神社



よしとし よしとしじんじや
●吉利 吉利神社
眼の神様です。祭神は「鎌倉権五郎景政」。源義家とともに後三年の役(平安時代後期に東北であった戦い)に出陣した際、敵に左の眼を射ぬかれますが、7日間その矢を抜かないままついにその敵を破り、名を高めたという人物と伝わります。このことから眼病のものが折れば特効があるとされます。すごい話です。



こいのほら こいのほらなりじんじや
●恋之原 恋之原稲荷神社
地名がとってもすてきな名前です。実はちゃんと由来があります。平安末期、源為朝が、この地域の長者の娘と恋に落ちたことから「恋之原」の名前がついたといえます。ところが、為朝は京に帰ってしまいました。ふたりが出会った場所には松が植えられたようです。ただ、よく考えるとこの恋は実ったものだったのかは疑問が残りますが、そこは稲荷神社の御祭神が助けてくれるでしょうね。多分。



ようほ うずまさじんじや
●養母 太秦神社
太秦といえば、京都の嵐山にある映画の撮影所を思い浮かべるひとも多いのでは。そのとおりです。その太秦にある神社を平安期から地域の勢力のあった市来氏によって勧請したのが、この神社だからです。そのために御祭神はなんと秦の始皇帝といわれています。おそらく鹿児島県内ではここだけでしょう。なぜなら、市来氏の氏神として祭られているからです。現在は地域の人々によって大切にされて、参道や境内も美しいです。

湯めぐりだヨ、 全員集合

湯之元温泉

江戸時代の初めに発見されたといわれていますが、戦国期に活躍した島津義久の家臣であった上井覚兼の日記にも記録が登場することから、より以前から温泉は湧出していたようです。薩摩藩によって浴場の管理がされたこともあり、「御前湯」「地頭湯」「打込湯」などがありました。近代に入ると鉄道の開通とともに栄え、その名残が静かに温泉街として表現されています。



こっちを向いてほしい〜

●湯之元の田の神様

あれ、田んぼがないのに田の神様が。しかも道路に背を向いています。と、なかなか突っ込みどころ満載なのに県指定の文化財になっているほどの田の神様。元文4(1739)年3月に地域の郷士らによって建立されたもので、おそらく入浴施設の周辺には田んぼが広がっていたということでしょう。その証拠に湯之元温泉を代表する公衆浴場の名前が田之湯ですからね。



温泉神社からの眺め♪

まち歩き HIGASHIICHIKI 湯之元温泉街



ひがすもう 彼岸相撲ってなあに?



温泉地は観光地。観光地には呼び込みが必要。湯之元温泉は相撲興行を行っていました。それが現在も継続されている伝統の彼岸相撲です。大正2(1913)年の鉄道開通に合わせて、毎年春の彼岸の中日に開催され、県内外からアマチュアの力士たちが集結しました。そのなかでも発起人でありながら、相撲も強かった白糸園は、温泉街を見下ろす桜公園に記念碑が建立されるほどの功績がありました。温泉街の発展には相撲があったんですね。



温泉街をまち歩き

日置市を代表するふたつの温泉街、湯之元温泉と吹上温泉は、入ってよしは当たり前で、歩いて楽しめるからとってもいいです。それは両方とも歴史があって、史跡なども点在し、また観光地や商業地としても栄えてきた街であることも散策に適している理由といえそうです。温泉と関係あるものもあれば、あんまり関係ないようなものもあります。でも、どちらも温泉街にとっては大切なものだから、入浴ついでに楽しんじゃいましょう。

吹上温泉

吹上温泉周辺の不思議な水の物語



吹上温泉から北に向かうと、ホテルイアオイで有名な正円池、景色の美しいさつま湖のふたつの湖があります。これはもとは海だったものが、川によって運ばれた砂などによって、閉じ込められてきたと考えられています。また伊作峠沿いには、かつては旅人がのどを潤したであろう、湧水がいくつか知られています。今も地域の人に大切にされている水辺を訪れてはいかがでしょうか。

MAP B-4
—乙女月の井川—

以前は伊作温泉の名前で親しまれていました。特に江戸時代後期になると名前が知られるようになり、西郷隆盛や小松帯刀も療養に訪れた記録があります。このように湯治の湯としても親しまれ、独特の泉質とともに現在でも訪れる人々を優しく迎えてくれます。

まち歩き FUKIAGE 吹上温泉街



泉質自慢の温泉ばかり♪



かわいいね

●田の神様

商店街から吹上温泉へと向かう道路沿いにある田の神様。ずいぶん高いところから周囲を見守っているようです。左手に大きなしゃもじ(メシゲ)を持ちここにここと笑った表情が印象的です。



これはすごい

えびす ●蛭子神社

温泉街からは少し離れていますが、温泉街の入口を示す看板の近くに蛭子神社があります。お社のなかに安置されている木像の蛭子神が実はすごいんです。伊作温泉の歴史と深い関わりを持つ島津日新公(忠良)が作成したとされる木像が二体あるのです。実はお社のなかには安置されているのですが、一時期江戸時代に紛失したことから、作り直したところ、島津日新公作成の木像が発見されたために、両方安置されたということです。どちらの木像も表情豊かですので、温泉入浴の前に参拝してはいかがでしょうか。

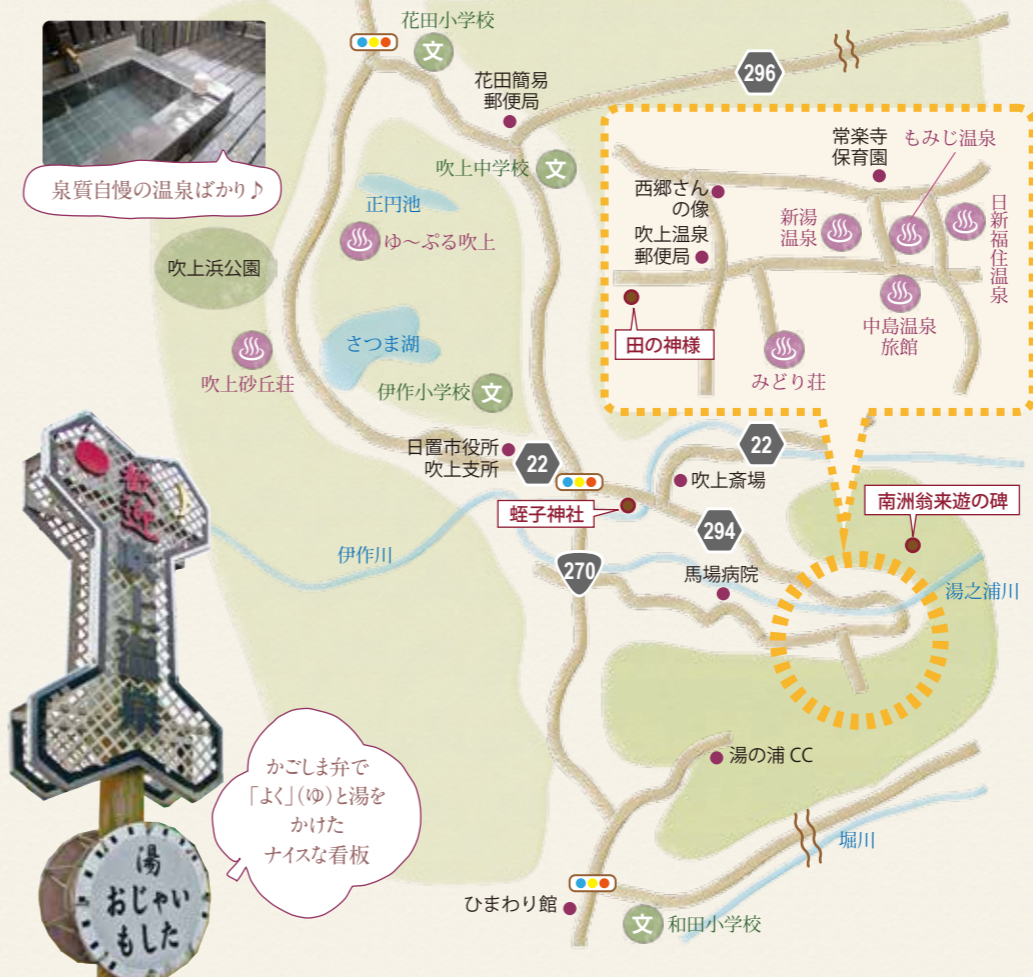


なんしゅうおうらいゆう ひ ●南洲翁来遊の碑

吹上温泉は、温泉好きで知られる西郷隆盛が湯治に訪れた温泉でもあります。訪問したのは明治3(1870)年といわれ、湯治だけではなく狩りも楽しまれています。ただ、この際に連れてきた東京の洋犬は役に立たなかったというユニークなエピソードも残されています。また明治7(1874)年にも訪れたといわれ、お気に入りだったようです。碑が建つ場所は山中で少々分りにくいのですが、狩りをした西郷隆盛の気分になって探してみてもいいのでは。



かごしま弁で「よく(ゆ)と湯をかけた ナイスな看板

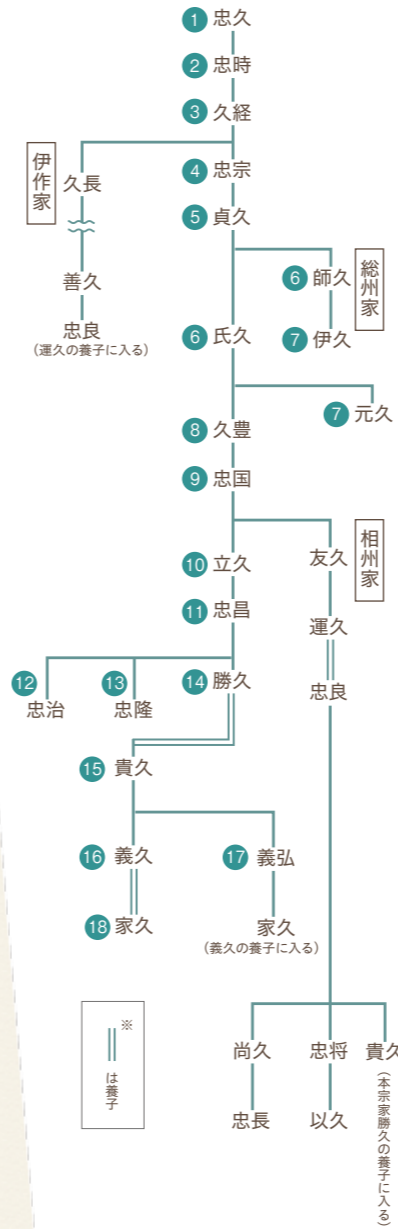


山城あるいて中世にタイムスリップ

そもそも、鹿児島にお城があったわけ？と思つたあなた。実は南九州には一般に「城」として思い浮かべるような天守閣があるようなお城はありません。が、各地で有力な武将が争いを繰り返した中世といわれる時代、実に多くの「山城」が築かれました。山城や自然の地形を利用した戦のための要塞です。しかも日置市は、島津氏がこの南九州で覇権を握るきっかけとなった島津日新公、その息子貴久、さらにその息子たち義久・義弘・歳久・家久なども生まれた最重要の土地にあたります。というわけで魅力的な山城もたくさん。散策できるような整備されているところもあるので、往時をしのんで歩いてみては。

これがあると便利で～す！

戦国期までの島津氏家系図



亀丸城跡 (「かめまるじょう」)
永 仁の頃、伊作荘・日置荘の初代島津久長が築き、その後10代忠良(日新公)に至るまで、伊作島津家の居城。忠良の長男貴久が島津家本家に入りその息子らによって薩摩日三州統一がなされて江戸時代に至った。江戸時代は藩の直轄地とされたが、重要な城として麓に郷土が配された。城の地形もそのまま残されていた。今も城内には数十の椎の巨木がそびえ、島津家の重要な人物たちが生まれた荘厳さを表すかのようである。

一宇治城跡 (「いちうじじょう」)
鎌 倉時代の初め、紀氏が館を構えたといわれその後伊集院氏と移り変わるが、宝徳2(1450)年島津忠国に攻略される。その後、薩州家の実久が入る時期もあったが、島津家本家15代当主となった貴久がここを本城と定め、三州統一後の拠点とした。日本にキリスト教を伝えたフランシスコ・ザビエルが貴久と会談したのはこの城だとする説もある。伊集院城ともい、室町期以前に一宇治城と呼ばれることが多かった。



南郷城跡 (「なんこうじょう」)
南 郷城合戦の舞台となった南郷城。ここは元々桑波田氏が築き、南北朝から本格的な山城としてあったが、大永6(1526)年、島津勝久から南郷を与えられた島津忠良が改めてここを守らせていた。しかし城主孫六が反旗を翻し、忠良と島津家本家の地位を争っていた島津実久側についた。天文2(1533)年、城主が狩りに出ている隙に城内に突入、陥落させて奪い取った。その後忠良が息子貴久を本家を継がし、薩摩の覇権をにぎる過程での重要な舞台のひとつとなった城である。

市来鶴丸城跡 (「いちきつまるじょう」)
市 来鶴丸城は鹿児島を代表する中世城郭。13世紀初頭、市来家房が最初の城主で、建武4(1337)年市来院司系惟宗姓市来氏で御家人であった市来時家と島津貞久の子・川上頼久がこの城で合戦したと伝えられる。15世紀半ば頃には守護島津家領となり、15世紀末に島津薩州家領となった。天文8(1539)年島津相州家から戦国大名となった島津忠良・貴久領となった。現在は麓に鶴丸小学校が置かれ、石垣が優美な姿をみせている。



①そもそも敵を防ぐことを目的として造られているので、険しい坂道があることを理解しましょう。
②いくつかの「曲輪(くるわ)」の跡が残っている場所もあります。よく耳にする「本丸」は城の防衛上の最重要地で、これも曲輪のひとつです。
③曲輪と曲輪の間は「切通し」「堀割」といって、高い土塁などに挟まれた狭い通路状になっている場所もあります。「頭上から敵の攻撃があるかも!？」スリル満点の気持ちで通り抜けましょう。

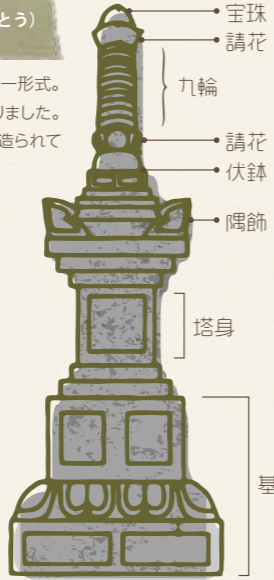
*山城(やまじろ)は、険阻な山を利用して築かれた城。日本においては、江戸時代の軍学者によって分類された地形による城の分類法の一つ。
*樹木や苔、土砂などで滑りやすいところもあるので、安全には十分に注意しましょう。

お墓は、歴史上の人物と対峙することのできる唯一の場所です。古いお寺跡でよくみかける形のお墓を覚えておくと、ちょっといいかも。

古いお墓でよくみかけるお墓のかたち

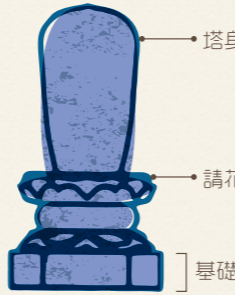
宝篋印塔 (ほうきょういんとう)

もともとは塔婆(仏舎利=仏様のお骨)の一形式。墓塔や供養塔として造られるようになりました。島津家の代々の当主の墓はこの形式で造られていて、伝統的なお墓の形といえます。



無縫塔 (むほうとう)

主に禅宗のお坊さんのお墓で見られます。



五輪塔 (ごりんとう)

もともとは塔婆(仏舎利=仏様のお骨)の一形式。密教において考え出された形で、下から地・水・火・風・空の「五大」=宇宙を表しています。



このほか、江戸時代の身分の高い人のお墓では、墓石を石の祠(はこら)で覆ったものも見られます。

*お墓では禁じられた場所へは踏み入らず、みだりに騒がず、節度を持ってお詣りしましょう。

日置の墓地を訪ねると偉人たちのルーツがわかる

たずねてみよう



天昌寺跡

元中2(1385)年に石屋禪師が建立、初め妙通寺という名前でした。島津貴久の四男・家久の長男豊久は佐土原城主でしたが、関ヶ原の戦いで伯父の島津義弘を守って戦死。関ヶ原の敗戦によって佐土原の地は徳川方に没収され、家臣たちはバラバラにならざるをえなくなりました。その訴えを聞いた義弘の計らいで永吉島津家がおこされることになり、その後、妙通寺が豊久の墓所・天昌寺と改まり、以後は永吉島津氏の代々の菩提寺になりました。歴代の墓とともに、石屋禪師の墓もあります。



大乘寺跡

島津歳久は15代島津貴久の三男(P9参照)。武将としても統治者としても人気がありましたが、当時覇権を握っていた豊臣秀吉の怒りを買ったことで、心岳寺(現平松神社/鹿児島市)で兄らの軍勢に追い詰められ自害。その孫島津常久が文禄4(1595)年に入来の塔の原から日置に移封され、日置島津氏の歴史がはじまることになりました。歳久の供養のため大乘寺は再興され、日置島津家の菩提寺となりました。日置島津家初代の島津歳久をはじめ歴代当主の墓が並びます。



多宝寺跡

臨濟宗のお寺で、伊作島津氏の菩提寺です。伊作島津家の初代久長から9代善久、さらにその家族や住職、伊作関連の人々の墓が並んでいます。伊作島津氏といえ、島津氏中興の祖といわれる島津日新公こと忠良が10代として活躍しましたが、その母である常盤御前の墓も祖父久逸の墓の前に安置されています。また、江戸初期の琉球出兵の際に総大将として従軍した樺山久高夫婦の墓も伊作地頭に赴任したことから、ここにあります。また伊作和紙を始めた牧田甚四郎の墓もあります。



桂山寺跡

日置3代領主島津常久は桂山寺を再興し、羽柴秀長の長子と日州根白坂で戦死して、父忠隆の菩提寺となりました。また、ここに眠る人物の中に赤山靱負がいます。日置島津家12代島津久風の二男で、嘉永2(1849)年にあった島津斉彬の藩主就任をめぐるお家騒動である「お由羅騒動」に関係し、翌年3月切腹を命じられました。この赤山家に入入っていたのが西郷隆盛の父・吉兵衛であり、父から赤山の最期の様子をきかれ、血染めの肩衣を貰い受けた隆盛は大きな影響を受けたといわれます。

どこを歩いてきたか調べてみよう！

廃線めぐりはおもしろい！！

大正3（1914）年4月、吹上浜に汽笛が響きました。まず伊集院駅から伊作駅まで開通したのが始まりで、2ヵ月後には加世田駅までつなぐりました。陸において一般の移動手段といえば、まだまだ徒歩か馬車しかない時代だっただけに、当時としては高速かつ快適な乗り物の登場に、南薩地域の経済発達において大きな起爆剤となりました。

昭和6（1931）年には枕崎駅まで延伸されましたが、昭和30年代を過ぎると、乗降客数も陰りが見え始めました。そして、昭和58（1983）年6月の水害によってトンネルや線路などが大きな被害を受けた南薩鉄道は、翌年の3月17日に沿線住民に惜しまれながら、営業を終了しました。

ただ、その廃線跡や駅舎跡などは、全てではないものの地域の方々などから見守られながら、現在でも足跡をたどることが出来ます。ここでは、注目すべき南薩鉄道関連の遺構をご紹介します。

線路は続くよどこまでも～

1 **現在のJR伊集院駅のホーム**
現在もJRの駅として営業されている伊集院駅は、南薩鉄道にとっては発着駅でした。かつては2番線ホームが利用されていました。駅周辺にはホームの面影などが残っています。

2 **神之川の橋脚**
伊集院駅を出発した列車が最初に渡る川が神之川です。ここには鉄橋がありましたが、現在は橋台が当時をしのばせてくれます。
わかりにくいけど見つけるとうれしい！

3 **県道24号を跨ぐ鉄筋橋**
伊集院駅から上日置駅へと向かう際に県道24号を跨ぐ鉄筋コンクリート製の橋が現在でも架橋されたままになっています。

4 **上日置駅跡**
営業当時の位置に、石造りの給水塔とホームが現存。また、周辺をよく観察すると線路は取り除かれていますが、所々に枕木が地面に埋もれています。上日置駅周辺はなかなか見ごたえあり。
ホームと給水塔が いい具合

5 **諏訪付近の線路跡**
上日置駅から日置駅の間にあたる田園風景を眺めながらの線路跡を確認することができます。土手になっているので、すぐわかります。
なんと枕木が眠っているところも ほんとだ！

6 **日置駅の給水塔跡**
駅跡は、わかりにくくなっていますが、当時駅にあった円形の石造りの給水塔が少しだけ場所を変え移設され、大切に保存されています。
こんなところに、という所があります。

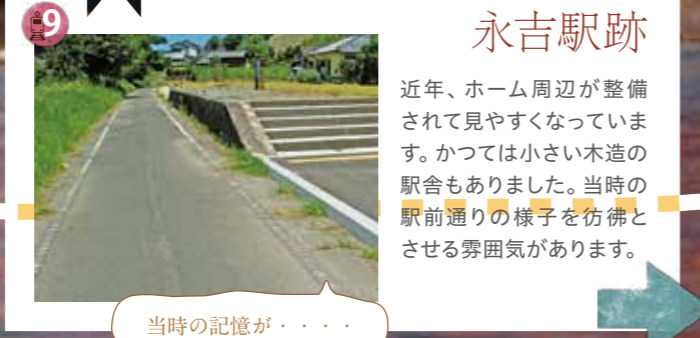
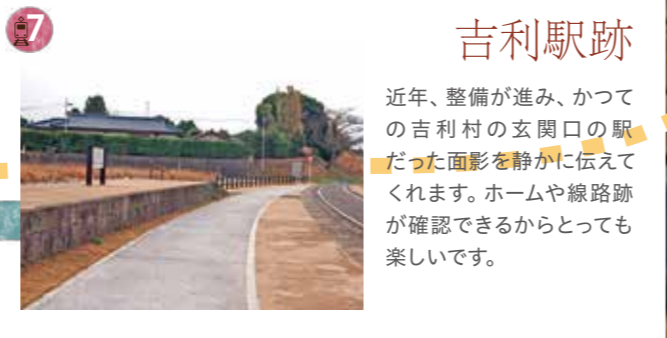
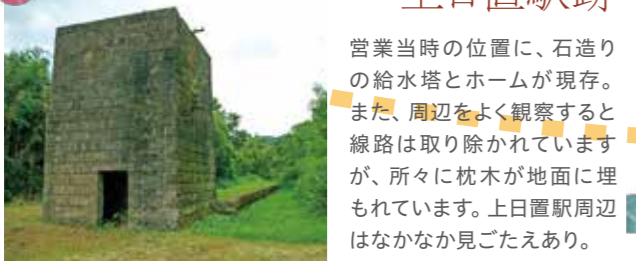
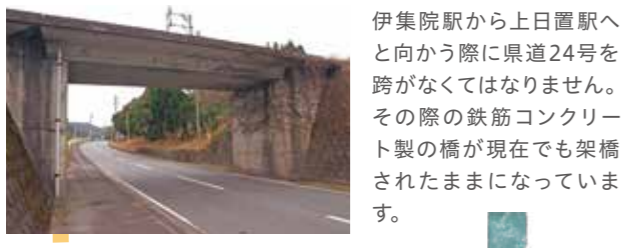
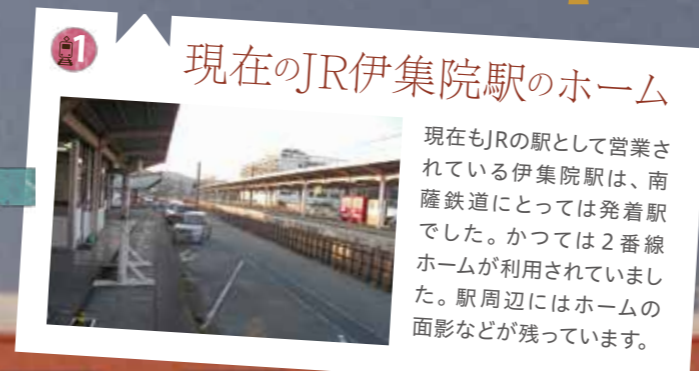
7 **吉利駅跡**
近年、整備が進み、かつての吉利村の玄関口の駅だった面影を静かに伝えてくれます。ホームや線路跡が確認できるからとっても楽しいです。

8 **永吉川橋梁の橋脚跡**
三連アーチ石橋・浜田橋と並行して架けられていた永吉川橋梁の橋脚はやはり石造の立派なもので、現在でも存在感を示しています。
この並びはすばらしい～

9 **永吉駅跡**
近年、ホーム周辺が整備されて見やすくなっています。かつては小さい木造の駅舎もありました。当時の駅前通りの様子を彷彿とさせる雰囲気があります。
当時の記憶が・・・

10 **吹上浜公園周辺の線路跡**
遊歩道として歩ける線路跡として活用されています。かつては松原の中をかつこよく列車が走っていました。また薩摩湖駅は吹上高校の学生に限らず、観光客でも賑わいました。
歩けま～す

11 **伊作駅跡**
さよなら列車が停まる伊作駅



背景写真：永吉川を渡る南薩鉄道

になりたいなあ～

せんぼんぐす 干本楠 MAP A-4
名前のように干本もの楠が群生してはいませんが、それに匹敵するくらい美しい景観が、大汝牟遲神社の参道脇に。樹齢は800年以上とも。



くろかわどうけつ 黒川洞穴 MAP B-3
縄文時代から平安時代に掛けて長期間住居として使用されていたという驚きの洞穴。神秘的な雰囲気です。



みょうけんじんじゃけいだいのきよせきぐん 妙見神社境内の巨石群 MAP A-4
境内に足を踏み入れると、一つひとつの巨石が社殿の後ろに並んでいるのに驚かされます。神社は別名石聚神社とも呼ばれた時期もあることから、この巨石群も信仰の対象であったことが理解されます。



やいし 矢石 MAP A-4
畑の真中にぽつんと棒状の石が突き刺さっています。金峰山の神様と野間岳の神様(両方南さつま市)が互いのものを投げ合い争いをした際に、野間岳の神様が投げた石が外れて落ちたもの(と伝説)。



あんざんいわ 安産岩 MAP B-1
不思議な力を持った岩です。この大きくもやさしそうな岩は子授け岩として信仰されています。ちなみに近くの湯之元温泉の入浴と併せての参拝がオススメです。



とくしげずいどう 徳重隧道 MAP B-2
延長は約67メートルで、アーチが鹿児島では珍しいレンガ造り。大正2(1913)年、鹿児島から川内への鉄道のトンネルとして建造されたもので、現在でも里道として現役で利用されています。ゆるやかなカーブに心惹かれます。



おこばちく たなだ 尾木場地区の棚田 MAP C-1
「休右衛門新田」の名がついた美しい棚田は、明治から昭和にかけての45年間、休みなく山林を切り開き続けた先人の苦労の証。守り伝えたい地域の美観です。



よあかし岩 MAP B-4
昔、このあたりで野宿をするようになった二人の旅人が、この岩を見て「誰かが手を加えたものだろう」「いや、神様がお造りになったものだろう」と議論しているうちに夜が明けてしまいました。以来「よあかし岩」と呼ぶようになりました。けっこう大きいです。



いいむれずいどう 飯牟礼隧道 MAP B-2
長さは約50メートルへらい幅は車一台通過するのがやっとのかわいらしい隧道です。内部は出したら譲り合いの精神をいかに発揮できます。竣工は昭和6年と歴史は古く、開口部の形状が楕円でなく、シユツと尖がっているのが特徴です。



たいようのとう 太陽の塔 MAP B-4
昭和60年廃校の平鹿倉小学校の校庭の隅っこ、しかも便所の横に控えめに建っている「太陽の塔」。大阪万博の本物と同じくらい大きな塔ではないものの、存在感は抜群。昭和46年3月の卒業生が卒業生の担任の指導のもと制作。中に地域の石を詰めこめられた、まさに地域密着の美の存在です。



さんぼうづかのいっぽんすぎ 三方塚の一本杉 MAP C-1
ここまでたどり着くにはそれなりに歩くことになりま。ただ、眺める価値は十分にあるのが一本杉です。また杉には悲しくも人間と動物に関わりについて考えさせられる物語が伝わっています。これも詳細は歩いて現地の案内看板を読んでみましょう。



じゃのあな 蛇の穴 MAP B-3
昔、美女に化けていたという大蛇が通り抜けたという洞窟がこれ。その迫力からは美女は想像できませんが、大蛇は納得できます。その大蛇は通り抜けた後に空へと飛び上がったといま。



～日置市に点在する珍しき 自然景観と文化遺産～



MAP A-3
名 かめまる庵
時 11:00~15:00
 (日祭)10:30~15:00
電 099-299-3380
休 第2・4水曜

かめまる庵
 永吉から川を下り河口に建つ物産館。かめまる館棟を別にして構える「かめまる庵」は、半野外の席もあるソバ処。丁寧に手打ちされたおソバはちゆるちゆると何枚でもいけてしまえそうなおいしさです。



楕円形のアトリエから見えるのは一面の山の緑



フリーイラストレーターである大寺さんは、2000年より活動拠点を日置市吹上町に移して、田舎暮らしと「最新のデジタル技術と豊かな自然の接点」をテーマとして表現活動を行っていらつしやいます。自宅兼アトリエのかたががまさにそれ。永吉に不着した宇宙船のようです。またかつてにぎわった永吉の商店街を再考する「動く永吉」の会長として、これまでの景観を壊すことなくまちの機能を維持するための活動を継続されています。

i おおてら さとし
大寺 聡氏



MAP A-3

かめまる館を越えたところの吹上浜。
 かめまる館の横の立派な石橋・浜田橋。この脇から遊歩道沿いにあると久多島神社があり、さらにその脇に続く小道をさくさく歩くと、吹上浜に出ることができます。
 河口の砂州の形も刻一刻と変わり、下流から見上げる浜田橋も絵になります。遠くには野間岳の山頂がくっきりと見え、吹上浜の長さを実感できる場所といえるでしょう。

かめまる館を越えたところの吹上浜。



日置市各物産館などで取り扱っています。¥840

吹上町の新特産品として登場した「ソマモンド」は吹上産のソバとアーモンドのお菓子。サクサクしつともソバらしいしつとり感があり、あとからふわーと漂うアーモンドの香りがくせになりそう。大寺さんがパッケージを担当。かわいイフクロウとヒンカッコネという謎の鳥が描かれているわけは？中のリーフレットまでぜひ楽しんでほしいです。

ソマモンド



イラストレーター 大寺 聡氏

薩摩焼宗家 十五代 沈壽官氏

情熱家 博多 和宏氏

ごはんにおみやげ、おすすめ風景などなど...



吹上町内の店舗などで取り扱っています。¥500

野首しようが蜜
 ワンダーマップの活動の中で、野首地区婦人部の皆さんと開発された、吹上の生姜を使った「野首しようが蜜」。吹上のパワーを吸収して育った生姜たっぷり使用のしようが蜜を口にすれば、あなたも体の底から情熱が湧いてくること間違いなし！料理の隠し味として、御飲物としてどうぞ。



大人から子供まで情熱のカオス状態

様々な活動を行なっています。毎年2月に行われる「吹上ワンダーマップ」の開催は同プロジェクトの一環で、多くの人を魅了するアートイベントとなっています。

i はかた かずひろ
博多 和宏氏

「情熱家」である博多さんは、衣服制作を中心に絵画、立体造形、作詞作曲、身体表現、ライブパフォーマンス、舞台演出等の様々な創作・表現活動を行っています。吹上町野首集落に在住して、「WANDER MAP PROJECT」(ワンダーマッププロジェクト)を企画・運営し、「芸術の都吹上」の実現に向けて様々な活動を行なっています。



MAP B-4

みなさん情熱的に踊っておられます。

野首小学校の校庭
 博多さんのアトリエがある野首小学校(昭和60年廃校)の校庭。もうここが好きと言いつける博多さん。2012年の冬に、ワンダーマップに参加した大分の山中カメラ氏によって制作された盆ダンスがきっかけとなって、夏祭りが復活。人々が笑い集いました。今は校庭ではありませんが、ここがまた子どもたちの校庭として使われる日を願っています。

野首小学校の校庭



MAP A-4

名 農家れすとらん七菜
時 11:00~14:00
電 090-9594-0491
休 水曜



「吹上庵も好きなんだけど」とごまでも「吹上愛」を貫く博多さん。この日はワンダーマップのサテライト会場にもなっている農家れすとらん七菜で、野菜バイキングお食事会を開催。選び方も華麗です。

農家れすとらん七菜



MAP A-2

吹上浜 (神之川河口付近)
 ふきあげはま
 神之川橋のそば。浜沿いに道路と土手に挟まれた集落の側道を抜けていくと浜にたどり着きます。ここからは北に伸びる浜と江口蓬菜を見渡せるのがみせ。



おすすめの黒ジョカセット 「さしむかい」



十五代 沈壽官氏
 じゅうごだい ちんじゅかん
 薩摩焼宗家の第15代を1999年に襲名。精力的に製作を重ねておられ、伝統を守りながらも常に新しさのある作品は各方面で高い評価を受けておられます。
 また、沈壽官窯の敷地内にある沈家伝世品収蔵庫には、初代から15代までの歴代の作品を展示のほか、沈家に残る貴重な古文書や図案等もあり、美山(苗代川)の歴史の深さを堪能することができます。



MAP A-4

名 山之内商店
時 7:30~21:00頃
電 099-296-4434
休 日曜

山之内商店のトーフ
 神社参道の角にある昔ながらの風情漂う商店。「あのお店で売っているお豆腐、好きだなあ」という15代さん一押しのお豆腐は、この商店での製造ではありませんが、毎朝9時半頃に届く人気商品。参拝帰りに買い求める方も多い、かなりおぶりの豆腐です。
 山之内商店さんはお店を構えてかれこれ100年あまり。周りの方からは『カドミセ』と呼ばれますね。千本桶と大汝牟運地神社と3点セットで訪れてほしいお店です。



MAP B-1

名 百万石ドライブイン
時 11:00~20:30
電 099-273-0069
休 火曜

百万石の特製ちゃんぽん
 15代がもうこれは「ソウルフード」だよね」と語る特製ちゃんぽん。ソース味という見た目にもインパクト抜群のちゃんぽん。昼時とまではいって席でもあちらの席でも皆このちゃんぽんをすすっています。昭和23年頃に串木野でお店をはじめ、国道3号線沿いの現在地に移られたのも昭和54年のこと。「常連さんの方にはとろみが強いものを好む方もいらつしやるけど、初めての方にはびつくりしないようにマイルドな味でお出ししていますよ」という店主の心遣いも嬉しい。

こんなところからもまち歩き

まだまだ日置市には歩いて楽しい場所がたくさん！
目印として分かりやすい市役所や支所をスタート地点として、楽しめるコースをご紹介します。



伊集院 ～商店街ものんびり歩く～

① いろいろ目移りしながらお散歩 90分コース

日置市役所・徳重神社 [●P.3] ・妙円禅寺 [●P.3] ・
雪窓院跡・銀天街・永平橋 [●P.4] ・熊野神社・日置市役所

*足をのばせば一宇治城跡 [●P.9]、徳重隧道 [●P.13] も近くです

[みてあるき POINT]

住宅街や商店街の中を歩きます。意外な場所に史跡や文化財があるから楽しいです。商店街ではお買物もOKです。



東市来 ～山城には“歴史”があります～

② 麓の雰囲気がすばらしい 60分コース

東市来支所・・・市来鶴丸城跡 [●P.9]・・・竜雲寺跡・・・
藤之尾神社・・・東市来支所

[みてあるき POINT]

山城への道筋も整備されていますので、がんばってのぼってみると、ザビエルな気分になれるかも。竜雲寺跡には島津氏ゆかりの墓もあります。



日吉 ～日置瓦のふるさとで窯元もめぐる～

③ のどかな田園風景の中に
重厚な歴史が見え隠れ 90分コース

日吉支所・・・明信寺・・・大乘寺跡 [●P.10]・・・八幡神社
・・・南薩鉄道給水塔跡 [●P.11]・・・日吉支所

[みてあるき POINT]

日置瓦は日置を代表する産業。そのルーツが明信寺なんです。そして大乘寺跡にある南洲窯にはある方のご子孫が。



吹上 ～商店街と旧街道～

④ ちょっとアップダウンがあるけど
なんてすてきなまちあるき 90分コース

吹上支所・・・商店街もしくは伊作街道・・・蛭子神社 [●P.7]
・・・石亀神社(多宝寺跡) [●P.10]・・・大汝牟遅神社
・・・千本桶 [●P.13]・・・吹上支所

*足をのばせば 伊作駅跡 [●P.11]・妙見神社 [●P.13] も近くです。

[みてあるき POINT]

浜だけではない、魅力たっぷりの吹上の街なかをのんびり歩くと、パワースポットからかわいい蛭子像まで。旧街道もよかですね。



広域マップ

ACCESS

●JR鹿児島本線で
JR鹿児島中央駅—(18分)—JR伊集院駅
—(6分)—東市来駅—(3分)—湯之元駅

●南九州西回り自動車道で
鹿児島IC—(15分)—伊集院IC—(7分)—
美山IC

・伊集院ICから伊集院地区まで約5分
・伊集院ICから吉利地区まで県道37号で約15分
・伊集院ICから吹上地区まで県道37号で約40分
・伊集院ICから東市来地区まで県道24号で約20分
・美山ICから東市来地区まで国道3号で約10分

●指宿スカイラインで
鹿児島IC—(10分)—谷山IC
・谷山ICから吹上地区まで県道22号経由で約20～30分

※時間はおよその移動時間です。